

選考員講評

【総評】

二宮 陸生 選考委員長（糸満市立潮平中学校・沖縄県造形教育連盟顧問）

本年度も児童生徒の意欲あふれる作品が集まりました。年々応募総数も増加し、今年度は小中高総数３３０点。学校を通して個人で参加する生徒も増えてきました。また、小中高とコンクールへの参加意欲が顕著です。気候変動や自然災害の情報に接する機会が増え、自然愛護、緑化活動への関心が高まってきているのでしょう。

校種を問わず、全体的に時間をかけてじっくりとテーマに向き合い、丁寧に描き込まれた作品が多く見られました。また、用意された緑色をそのまま彩色するのではなく、混色をして自分なりの色彩を探している作品も多くありました。どの作品も、テーマを自分なりに捉えて構想を練り、モチーフの特徴を生かしながら構図を工夫していました。

ただ、例えば木の芽やそれを守る手、動植物などを象徴的に配置していく表現方法が多数をしめていました。これからは、そのような作品に加えて、日常的に自然と向き合う人々の姿、緑化活動など、生活や暮らしの中で共生していこうとする人々の「思い」に目を向けることも大切だと感じました。

【小学校の部 講評】

矢澤 愛子 選考委員（宜野湾市立長田小学校 教諭）

「小さな芽から豊かな自然 みんなでつなぐ美ら島づくり」のテーマのもと、１５点の応募がありました。応募作品は沖縄の自然を描いたものが多く、緑化への思いが感じられる力作でした。全体的に明るい色彩と伸びやかな表現が多く見られ、ポスターを意識した作品も見られました。どれも時間をかけ丁寧に描かれ、作者の熱意が伝わる素晴らしい作品ばかりで審査は難航しました。

最優秀賞の田中なつめさんの作品は、伸びやかで明るい線が印象的な作品でした。沖縄の動植物が効果的に配置され、一目で目を惹く作品でした。

優秀賞の砂川桜寿さんの作品は、丁寧な線で細部まで描き込まれ、植物への愛情を感じさせる作品でした。

同じく優秀賞の嘉数妃笑さんの作品は、沖縄の生き物や植物だけではなく、波や雲の線まで工夫され、自然の情景を見事に表現していました。

今後も豊かな感性で緑化運動を盛り上げるような素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしています。

【中学校の部 講評】

生沢 均 選考委員（沖縄県緑化推進委員会 常務理事）

中学の部では例年どおり多数の応募がありました。

それぞれの作品は、生徒がイメージする募集テーマについて工夫して、画面いっぱいに色彩あふれる作品が多かった。

最優秀の山村咲季さんの作品は、沖縄の森の中に友達がたくさん集う情景を高いところから見下ろすように描かれており、賑やかな声が聞こえる楽しい作品となっている。

許田珠生さんの作品は、森の中で動物達が見守る中、小さな苗木を受け渡す手が大きく描かれた作品で、全体を淡い色彩で描かれたきれいな作品仕上がっている。

勢理客伽奈さんの作品は、緑豊かな地球を守りつなげるというイメージを様々な緑色で彩られた作品となっている。

そのほか、今回の難しいテーマについて、樹木や地球の配置を工夫し、色彩豊かな素晴らしい作品が多く見られた。

このコンクールを機に、緑を守り育てることの重要性が理解され、美ら島づくりにつながれば素晴らしいと思う。

【高等学校の部 講評】

高田 浩樹 選考委員（沖縄県立芸術大学美術工芸学部 准教授）

高校生の部では、多くの力作をご応募いただき、心より感謝申し上げます。今回の応募作品はいずれもエネルギーに満ち、表現力豊かで、審査にあたり選出に大いに悩むほどの水準の高さでした。

入賞作品は、アイデアの構想から資料収集、構図の検討、色彩の調和に至るまで、緻密な計画と優れた表現力が光るものばかりでした。制作には膨大な時間と熱意が注がれていることが伝わり、制作者の真摯な姿勢に深く感銘を受けました。

こうした経験を通じて、将来デザインや美術の世界で活躍する人材へと成長していく姿を容易に想像することができます。本コンクールへの挑戦が、新たにデザインや美術への関心を高める契機となり、今後の学びや創作活動の糧となることを期待しています。